

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411(代)

No.28
2022.02

オミクロン株流行下の新しい生活様式

予防接種センター長 岡田 賢司

◎オミクロン株の症状は、カゼの症状と区別がつきにくいとされています。

体調がいつも違うときは無理をしないで休んでください。発熱、のどの痛み、咳などは新型コロナウイルス感染のサインかもしれません。ご自身や周りの大切な人を守るため、少しでも症状があるときは、無理して登校や出勤をせずに、かかりつけ医に相談しましょう。周囲の方々にも、出勤・登校前の発熱などの体調確認、症状がある場合の出勤・登校の自粛などの呼びかけをお願いします。

◎会食時のお願い

お酒を飲みながら、マスクを外しての、大声での、長時間の会食が感染の要因の一つとされています。どんなに楽しくても、話をする際はマスクを着け、大声は控え、2時間以内で終わるように心がけましょう。会食時は、大皿は避け個室を徹底し、箸やグラスの共用も控えましょう。食事の前後に、こまめに手洗いも忘れないでください。

厚生労働省が提案している「新しい生活様式」¹⁾を紹介します。一部は著者が追記しています。

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）あけましょう。

会話をする際は可能な限り真正面を避けマスクを着けましょう（5分間の会話は1回の咳と同じ）。

外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着けましょう。

家に帰ったらまず手や顔を洗いましょう。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替え、シャワーを浴びるようにしましょう。

手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗いましょう（手指消毒薬の使用も可）。

※ 高齢の方や持病のある感染したら重症化リスクの高い方と会う際には、体調管理をより慎重にしましょう。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底

こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保

「3密」の回避（密集、密接、密閉）

一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行

毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養

◎市町村から追加接種（3回目）用の「接種券」が届いている方は、できるだけ早めの接種をお勧めします。



引用文献

1) 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)

この度、「第三回 福岡歯科大学医科歯科総合病院 連携の会」を11月25日に開催させて頂きました。ご出席を賜りました皆様、そしてご講演およびご援助いただきました教職員の皆様には心より感謝申し上げます。講演内容は、令和3年4月に新設され赴任された川波哲教授より放射線診断科の診療内容の報告、そして開設されて3年目を迎え、最近患者数が増加している、小児口腔外傷センターの馬場篤子病院准教授より近況報告をして頂きました。医科歯科共通のトピックとして「摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)の取り組み」をテーマに、耳鼻咽喉科の山野貴史教授、訪問歯科センターの牧野路子准教授、言語聴覚士大森史隆主任より講演を頂きました。熱のこもった発表と活発な質疑応答が印象的でありましたが、講演後のアンケートにおきまして、「期待以上22.2%、期待通り59.2%」、「次回もぜひ参加したい51.9%、機会があれば参加したい48.1%」と高いご評価を頂きました。全国にも珍しい医科歯科総合病院の特色を生かし、医師、歯科医師そして医療従事者の皆様に興味を持って頂ける企画として今後も福岡歯科大学医科歯科総合病院 連携の会の開催を継続して計画したいと考えております。皆様のご指導御鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

11月25日(木) 19:30～ 新病院4階大会議室

プログラム

I 放射線診断科よりお知らせ	教授	川波 哲
II 小児口腔外傷センターよりお知らせ	病院准教授	馬場 篤子
III 医科歯科共通のトピック		
「摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)の取り組み」		
1) 耳鼻咽喉科医師の立場より	教授	山野 貴史
2) 歯科医師の立場より	准教授	牧野 路子
3) 言語聴覚士の立場より	主任	大森 史隆

放射線診断科より

教授 川波 哲

令和3年4月より、従来からの口腔画像診断に加え、全身を対象とした医科領域の画像診断を行う新たな診療科として加わりました。医科歯科総合病院には3テスラMRI、歯科用コーンビームCT、256列全身用CT、DXA(骨塩定量解析)、デジタルマンモグラフィなど最先端の画像診断機器が設置されています。院内はもとより、院外の医療施設様にも気軽にご利用頂けるよう祈念しております。

耳鼻咽喉科医師の立場より

教授 山野 貴史

嚥下障害を起こしえる疾患は、多岐にわたり病態もさまざまである。スクリーニングとしての簡易検査は、誤嚥の有無の判断には有用かもしれないが、病態の把握は困難である。また、指示動作に従えない場合には実際の嚥下機能とは乖離することが多い。

当院では、嚥下障害を疑う症例は、まず耳鼻咽喉科外来を受診して一般的な診察の後、原則全例に嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査を施行する。この結果をスタッフ間で検討し、食形態の選択、嚥下リハビリテーションのメニュー、嚥下機能改善手術の適応などの治療方針を決定している。また、検査所見はすべて動画として保存しており、他施設と情報共有にも役立っている。

小児口腔外傷センターより

病院准教授 馬場 篤子

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、地域医療に貢献することを目的に、2018年10月1日より新たに院内措置として小児口腔外傷センターを開設しました。

このセンターでは、0～15歳までの小児の口腔外傷に対し、小児歯科・口腔外科・耳鼻咽喉科をはじめ本院の診療科が協力体制をとりながら、口腔外傷の処置を適切に行います。来院される際は、まずはお電話で連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。

歯科医師の立場より

准教授 牧野 路子

安全で楽しく食事するために、できるだけ誤嚥のないお口を作ることが必要です。食べる機能や飲み込む機能が低下すると、1日に摂取できる栄養量にも影響を及ぼし、低栄養の状態に陥ってしまいます。食べる・飲み込む機能は歯科医師だけでなく、様々な職種と連携して支えていく分野です。まずは身近な歯科にご相談ください。

言語聴覚士(ST)の立場より

主任 大森 史隆

言語聴覚士とは、言語、発音、聴覚、発達、認知、嚥下(飲み込み)、音声等に障害のある方々へリハビリテーションを行う職種です。入院だけでなく外来でのリハビリテーションにも力を入れており、小児～成人の幅広い方々にご利用いただいております。言語聴覚士による訓練をご希望の場合は、耳鼻咽喉科でご相談ください。

令和3年度 歯科外来初診担当医表

総合歯科・高齢者歯科（総合初診）						
	月	火	水	木	金	土
午 前	山田/瀬野・畠山	島津・谷口	畠山	島津・谷口	梅崎	当番医
午 後	山田	江頭	大曲	瀬野	山口	—

保存(むし歯)・歯周病科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	松崎	二階堂	笠	保存ローテーション	有田	当番医
午 後	吉永	歯周ローテーション	松本	大城	水上	—

補綴(入れ歯)科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	加我	都築	川口	松浦・宮園	谷口	当番医
午 後	濱中	山口	吉田	柴口	有床ローテーション	—

口腔インプラント科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	城戸・加倉					当番医
午 後						—

口腔外科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	米津	米津	米津	横尾	吉住	当番医
午 後	佐々木	佐々木	当番医	吉住	横尾	—

※手術等により担当医が変わる場合があります。

矯正歯科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	阿部・高田・梶原・石井・新留					当番医
午 後						—

小児歯科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	石井・熊谷	横田・柏村	AM 大木 PM 吉田	一瀬・松尾	AM 幡地 PM 田村	当番医
午 後						—

障害者歯科(スペシャルニーズ歯科)						
	月	火	水	木	金	土
午 前	田崎・尾崎・利光・今村・天野・中山					当番医
午 後						—

口腔放射線診断科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	筑井	香川	筑井	香川	筑井	筑井
午 後	筑井	香川	筑井	香川	筑井	—

令和3年度 医科外来担当医表

内科	月	火	水	木	金	土
午前	司城/大星/荒瀬	大星/富田	荒瀬	藤井/大星	富田/藤井/司城	1 富田 2 荒瀬
午後()内は応援	富田/(藤井) 16:00~16:30休診	藤井/(司城)	司城/樗木/(富田)	荒瀬/(大星)	当番医/(荒瀬)	3 司城 4 藤井
研修日		荒瀬	大星/藤井	司城/富田		5 大星

※金曜午後当番医 第1 富田 第2 荒瀬 第3 司城 第4 藤井 第5 大星

外科・内視鏡センター	月	火	水	木	金	土
午前	神代/古野	手術日	池田/神代/栗山	池田/神代/栗山	池田/古野/栗山	池田/古野/栗山 (Dr池田は2.4)
午後	池田/神代/古野		手術日	神代/栗山	池田/古野/栗山	
午後 乳腺/肛門			渋田/守永(2.4)			
研修日	池田(AM)・古野(1.3.5) 栗山(2.4)		神代(AM)	池田(PM)・古野(2.4) 栗山(1.3.5)	神代	

※内視鏡センター直通携帯 080-3693-5038

心療内科	月	火	水	木	金	土
午前(完全予約制)	澤本		金光		金光	当番医
午後(完全予約制)	金光	澤本	澤本	澤本		
研修日		金光(9~3月)		金光(4~8月)	澤本	

耳鼻咽喉科	月	火	水	木	金	土
午前	山野/西平	西/山野	手術日/当番医	西/西平	山野/西	当番医
午後	西平	西	当番医	西	山野	
研修日	西	西平		山野	西平	

※山野Drは外来診療担当日以外でも対応可能なことがあります(研修日を除く。要確認)

形成外科・美容外科	月	火	水	木	金	土
午前・午後(完全予約制)	萩家	萩家	萩家	萩家	萩家	再診のみ

皮膚科	月	火	水	木	金	土
午前	吉田/加藤	古村/加藤	吉田/加藤	古村/加藤	古村/吉田	当番医
午後	吉田/加藤*	古村/加藤	吉田/加藤	手術日	古村/吉田	
研修日	*パッチテスト優先	吉田	古村		加藤	

眼科	月	火	水	木	金	土
午前	川野/前原/中村	川野/大島/前原/中村	川野/大島/前原/中村	大島/前原/中村	川野/大島/前原/中村	当番医
午後	大島/中村	手術日	大島/前原/中村	手術日	川野/前原	
研修日	前原(PM)			川野(AM)	大島/中村(PM)	

※月曜午後は手術の場合あり

小児科	月	火	水	木	金	土
一般(午前)	沼田	野田	沼田	野田	鳥巢/沼田	当番医
午後(予防接種)(予約制)			沼田		岡田/沼田	
午後(神経・発達)(予約制)	鳥巢/野田	鳥巢/野田	鳥巢	鳥巢/野田	鳥巢/野田	
研修日		沼田	野田	鳥巢(AM)		

整形外科	月	火	水	木	金	土
午前	井上/永野	永野/井上	井上/加島	加島/永野	手術日	当番医
午後(予約制)	加島/(永野)	井上/(永野)	井上/(加島)	加島/(永野)		
研修日		加島	永野	井上(AM)		

口腔内は粘膜で覆われており、その粘膜を由来とした種々の良性腫瘍や悪性の腫瘍（口腔がん）が発生します。口腔の部位別では舌、歯肉、頬粘膜、口底、硬口蓋に発生し、そのうち舌がんが約60%と最も多く、次に歯肉がんの頻度が高いです。口腔がんは全体のがんの1~3%と発生頻度は高くありませんが、罹患者数は年々増加しています。60歳代男性に多く、近年では女性の割合が増えているのが特徴です。通常のがんと同様に自然に治癒することではなく、転移や無作為に増殖するため、治療が必要となります。さいわい口腔がんは目に見えるところに存在しますので、早期発見が可能です。早期がんの場合、5年生存率は90%以上です。次に口腔がんの治療の概要を説明致します。

口腔がん治療の第1選択は手術で、がんを確実に切除します。初期癌では放射線治療も適応になり得ますが、現在ではほとんどの症例で手術が選択されています。口腔がんは首のリンパ節に転移をきたしやすい特徴があります。もし、首のリンパ節に転移が認められた時は、頸部郭清術を合わせて行います。また、症例に応じて術後に抗がん剤や放射線の治療を追加することがあります。

口腔は咀嚼や味覚、嚥下、発音など、人が健康で快適な生活を送る上で非常に重要な役割を担っています。特に進行がんでは手術によってこれらの機能が低下しますので、失った舌などの軟組織や顎骨などの硬組織を各種皮弁で再建し、発音、嚥下機能や整容面の回復を図ります。さらに、最近では3Dデジタル技術を活用し、特殊な義歯やインプラントによって咬合回復を図り、咀嚼が出来ることを目指します。

初期がんは生存率が高いだけでなく、口腔機能の低下が少なくなります。早期発見に勝る治療法はありません。もし、口内炎と思っても症状が2週間治らない時は、歯科医院や口腔外科にご相談下さい。

顎変形症 最新デジタル技術を応用した顎変形症手術の試み ～3Dシミュレーションを用いた手術プランニング～

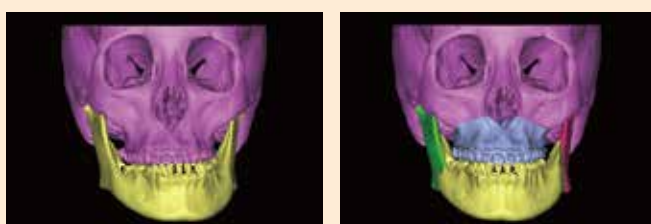
口腔外科 横尾 嘉宣、池邊 哲郎

顎変形症とは、顎の左右への歪みや前後の噛み合わせのズレがある病気のことで、このような患者さんの歯並びは通常の矯正歯科治療では治せません。顎の骨の手術である顎矯正手術が必要になります。

顎変形症の治療では、手術前後の矯正歯科治療と口腔外科で行われる顎の骨を移動させる手術を組み合わせた治療を行いますが、通常の矯正歯科だけの治療とは違って健康保険を適用することが可能です。顎変形症治療では、口元や横顔などの審美的な問題だけではなく、よく噛んで食事ができたり、話しやすくなったり、お口の生理的・機能的な問題を改善することが目標です。

そのために、われわれ口腔外科医が行う手術には患者さん一人一人に合ったテーラーメイドの手術プランニングが必要になります。以前は横顔などを撮影したレントゲン写真を作図する手作業で手術計画を立てていましたが、2019年4月以降、福岡歯科大学医科歯科総合病院口腔外科では、歯科大学だからこそ備わっている最新のデジタル技術機器を応用した3Dシミュレーションを用いた手術プランニングを行っております。この技術を有効に利用することで、顎の形態が左右非対称な患者さん（顔面非対称症）にはどこまで左右対称な骨格を作ることができるのか、受け口を持った患者さん（下顎前突症）にはどこまで顎をさげることができるのか、手術前に正確なシミュレーションを行うことができるようになりました。われわれは患者さん一人一人に安全で最善の治療を提供することを目指し、最新デジタル技術を応用した顎変形症治療に挑戦しています。

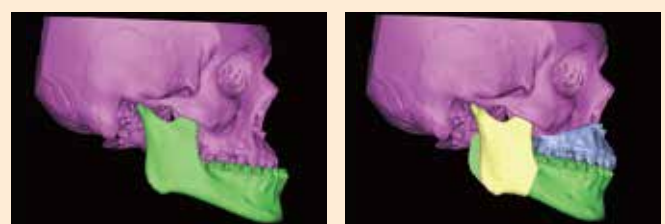
図1 顔面非対称患者さんの3Dシミュレーション



術前

術後予想

図2 下顎前突症患者さんの3Dシミュレーション



術前

術後予想

「周術期」という言葉は聞きなれない方も多いかと思いますが、簡単に言うと手術日を含めた手術前後の治療時期のことを指します。一般的に全身麻酔による手術や抗がん剤治療、放射線治療などを受けると、身体の抵抗力（免疫力）が低下してしまいます。お口の中には、多くの細菌が存在しているため、お口の中が不潔だと、手術後に肺炎になったり、お口の細菌由来の感染症などの合併症を発症しやすくなると言われています。また、抗がん剤治療や頭頸部への放射線治療を行うと、お口の中が乾燥したり、お口の中の粘膜がダメージを受けて炎症が起り、痛みや味覚異常により食事をとることが困難になることがあります。これらの合併症を予防するために、治療開始前から歯科医師、歯科衛生士が介入し、専門的なお口のケアや適切な歯科治療を行います。

周術期口腔機能管理とは、このように手術前から手術後、回復するまでの期間に、お口の中を清潔にし合併症を予防、緩和して良好な状態でのりきるためにお口の状態を適切に管理することをいいます。

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、入院前または入院当日に病棟の口腔ケアチームが口腔内の状態を確認し、全身麻酔の手術や抗がん剤治療、放射線治療などを受ける前に問題を起こす可能性がある歯（むし歯や歯周病など状態の悪い歯）の有無や歯磨きの状態のチェックを行い、必要に応じて揺れている歯の固定やマウスピース作製などの応急処置や歯石除去などのお口のケアを行います。

また、手術後は退院するまでお口の中の状態に合わせたお口のケアや飲み込みといった嚥下の機能訓練などを行い、安心して入院療養を行うことが出来るように患者さんのサポートをしています。



協会けんぽ生活習慣病予防健診の開始

健診センター長 榎木 晶子

副センター長 米田 雅裕

健診センターでは2022年4月から全国健康保険協会（略称協会けんぽ）に加入している方の健康診断もできるようになります。35～74歳の協会けんぽ被保険者は年に1回、定期健診として一般健診（診察、検尿、血液検査、胸部X線検査、胃健診、任意で肝炎ウイルス検査など約30項目）を受けることができます。40～50歳の方は、さらに検査項目を増やし病気の早期発見に活かすことができます。40歳以上の偶数年齢の女性では乳がん検査を、20～38歳の偶数年齢の女性は子宮頸がん検査も受けることができます。子宮頸がん検査は近隣の竹内産婦人科クリニック、松口レディースクリニック、藤吉レディースクリニック、天神の野崎ウイメンズクリニックと連携しています。被保険者の40～70歳のご家族も健診を受けることができます。まずは健診センターへの予約をお願いいたします。

これまで通り福岡市国民健康保険や後期高齢者保険に加入されている方の「よかドック」や「後期高齢者健診」も受けております。高血圧や糖尿病などで定期的に医療機関を受診されている方は、この制度を使われない方が多いですが、診療の一環としてこの制度を活用しましょう。

さらに、当センターは口腔健診を含む福岡歯科大学独自の健診プログラムも用意しています。口腔の健康は糖尿病や狭心症などの生活習慣病や認知症の予防に繋がります。口腔の健康を日頃から推進することによって全身の健康も維持できます。

当センターは健診センター長（循環器専門医）、副センター長（総合歯科医師）を中心に、歯科の各診療科や歯科衛生士部の協力だけでなく内科（脳循環、腎臓、糖尿病専門医）、外科（消化器、乳腺専門医）、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、臨床検査室、看護部、事務課の協力のもとに精度の高い健診を行なっています。電話や対面での丁寧な説明も心がけておりますので是非ご利用ください。また、様々な健診に柔軟に対応いたしますのでお気軽にご相談ください。

編集後記

新型コロナ（変異株）の流行下で、皆様もそれぞれ、様々な制約や困難の中を過ごされておられることかと存じます。本号では、そのような状況にあつて、感染対策で指導的な役割を果たしておられる本学の岡田賢司先生に『オミクロン株流行下の新しい生活様式』のテーマで寄稿頂きました。とても具体的かつ実践的な感染対策方法が提示され、それらの再確認の機会をご提供すると共に、今後の対策や過ごし方へ向けての、指針の一つとなれば幸いです。またコロナ禍は、身体的な危機であると共に、不安やストレスに直面する精神的な危機でもあります。感染防止や身体的ケアとともに、それを乗り越えていくための精神的ケアとして、閉塞的状況下においても、孤立してふさぎ込み過ぎぬように気を付け、1人1人が、少しでも明るい見通しを皆と共有しながら過ごして行くことが必要になるかと思えます。一日も早い安定を祈念しつつ、本号をお届け致します。（心療内科 金光 芳郎）